

財務会計 I シラバス

校長		教頭	
----	--	----	--

科目	単位数	学年	学期	必修・選択	対象学科
財務会計 I	3	3	全	必修	国際経済科

1. 科目のねらい

- (1)株式会社における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を身につけ、理解を深める。
- (2)株式会社の日常的な取引を合理的・能率的に記帳する方法と会計理論の基本的なしくみについて学習する。
- (3)貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を分析し、活用する能力と態度を身につける。

2. 使用教科書・教材

・教科書:『新財務会計 I』(実教出版) ・補助教材:反復式学習と検定 会計問題集全商1級会計(実教出版)

3. 授業の展開と形態

少人数の選択授業

4. 学習方法

- (1)授業の始めに会計学習についての概要を説明し、学科の目標を十分に理解させ、学習に対する意識付けを行う。
- (2)学習内容の定着を図るためになるべく多くの演習時間を設けるが、授業の中では十分に確保できないため、定期的な課題プリント等による家庭学習の慣習化を図る。
- (3)課題プリントや定期テスト等はファイリングし、家庭学習に活用できるようにする。
- (4)小テストや単元テスト、月例テストを行い、学習の定着度を確認しながら授業を進めていく。
- (5)検定前の課題講座や補習授業等を行い、目標級の取得を目指す。

5. 成績評価

- (1)中間・期末考査…学期ごとに中間考査と期末考査を実施する。
- (2)検定試験…学習の成果を測定するために全商簿記実務検定1級会計を受験する。
- (3)提出物…授業の進度に応じて適宜、プリントなどを配付し提出させる。
- (4)授業態度…授業への主体的な参加の意欲や質問の回数、さらにその内容を評価する。
- (5)小テスト…中間・期末考査とは別に適宜、小テストを実施する。

※この①から⑤の点数を、以下の割合で加算して評価する。

- | | |
|----------------|-------------|
| (1)中間・期末考査…60% | (4)授業態度…10% |
| (2)検定試験…10% | (5)小テスト…10% |
| (3)提出物…10% | |

6. その他(履修上の注意)

- (1)教科書、ファイル、筆記用具(ノート、鉛筆、赤ペン、定規、マーカーなど)、計算用具(電卓)の準備をきちんとすること。
- (2)欠席した場合は、その時間の学習内容とプリントや課題の有無を、次時まで各自で確認すること。

7. 観点別評価の趣旨

授業態度などの評価については、以下の観点別評価をおこなう。

	評価の観点・内容	評価の方法
①関心・意欲・態度	企業会計の意味・役割や制度、財務諸表の作成、財務諸表からの情報を活用することなどの会計に興味を持ち、会計の学習に積極的に取り組もうとしているか。	・観察 ・提出物(ノート等) ・授業態度
②思考・判断・表現	企業会計に関する諸問題の解決を目指して、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、工夫する能力を身に付けているか。	・観察 ・練習問題 ・小テスト等 ・定期テスト
③技能	会計の基礎・基本的な考え方や技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともにその成果を的確に表現しているか。	・観察 ・練習問題 ・小テスト等 ・定期テスト
④知識・理解	会計の基礎的・基本的な考え方や技術、財務諸表の作成、その財務諸表の活用を理解しているか。	・観察 ・演習問題 ・小テスト等 ・定期テスト ・検定試験

8. 財務会計 I 指導計画

月	学習内容	時間	学習のねらい	実習・演習・教材など	評価方法等
4	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業会計の意味と役割を理解させる。 ○ 財務会計の機能と会計公準の内容について理解させる。 ○ 企業会計制度の意味を理解させる。 ○ 企業会計原則・企業会計基準の役割と内容を明らかにし、一般原則の内容について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・プリント ・練習問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物 ・練習問題
	第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価 第5章 流動資産		12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 貸借対照表の項目である資産・負債・純資産について学習することを明らかにする。 ○ 資産の意味・分類を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・練習問題
5	第7章 固定資産	12		<ul style="list-style-type: none"> ○ 現金預金・受取手形・売掛金・有価証券の評価と記帳方法について理解させる。 ○ 棚卸資産の払出価額と期末棚卸高の計算方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・練習問題
	第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債 第12章 固定負債		12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有形固定資産の意味・種類を明らかにし、取得原価の計算について理解させる。 ○ 有形固定資産の期末評価を理解させ、減価償却の計算方法に習熟させる。 ○ 無形固定資産の取得原価に触れ、特にのれんに関する計算と記帳に習熟させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・模擬試験
6	第13章 純資産の意味と分類 第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式 第18章 貸借対照表の作成	12		<ul style="list-style-type: none"> ○ 負債の意味と分類を明らかにし、分類基準を理解させる。 ○ 流動負債の意味と種類を明らかにする。 ○ 固定負債の意味を明らかにし、その記帳に習熟させる。 ○ 社債の発行・利払い・期末評価・償還の記帳方法を理解させる。 ○ 純資産の意味と分類を明らかにする。 ○ 株主資本とそれ以外の区分の概要を理解させる。 ○ 資本準備金とその他資本剰余金に関する処理方法に習熟させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集
	第19章 損益計算書のあらまし 第20章 損益計算の意味と基準 第21章 売上高 第22章 売上原価、販売費及び一般管理費 第23章 営業外収益・営業外費用 第24章 特別利益・特別損失 第25章 損益計算書の作成 第26章 その他の財務諸表		13	<ul style="list-style-type: none"> ○ 損益計算書の役割・区分・様式など、その概略を明らかにする。 ○ 損益計算の意味を明らかにし、収益・費用の認識および測定基準、さらに、費用収益対応の原則について理解させる。 ○ 売上高を計上する基準について理解させ、記帳や計算などに習熟させる。 ○ 売上原価の意味と販売費及び一般管理費の種類について整理する。 ○ 営業外収益・営業外費用の意味・種類を明らかにし、経常利益・経常損失の意味を理解する。 ○ 特別利益・特別損失の意味・種類を理解させる。 ○ 損益計算書の税引前当期純利益から下の表示について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集 ・プリント
7	第4編 財務諸表の活用 第27章 財務諸表のディスクロージャー 第28章 財務諸表分析	12		<ul style="list-style-type: none"> ○ 損益計算書作成上の原則や注記などを理解し、会社計算規則による場合を中心に習熟させる。 ○ 株主資本等変動計算書の意味とその作成方法を理解させる。 ○ 企業と利害関係者およびディスクロージャーについて理解させる。 ○ 財務諸表分析の意味・方法を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集 ・プリント
	1		日商簿記検定2級対策	9	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習を整理し知識・理解を深める。 ○ 連結財務諸表の意味や目的を明らかにし、連結財務諸表の概略を理解させる。
第5編 連結財務諸表 第29章 連結財務諸表のあらまし 第30章 連結財務諸表の作成① 第31章 連結財務諸表の作成②		5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連結貸借対照表の作成手続きを理解させる。 ○ 子会社の資産・負債の時価評価による評価替えのための連結仕訳を理解させる。 ○ 連結貸借対照表と連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書のひな形を確認し、連結精算表から連結財務諸表を作成させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験問題集